

# 「お祝いの気持ちを包もう」

贈り物を白い和紙で包み、水引を結ぶ。

この「折形」と呼ばれる、物やお金を贈るときに紙で包む方式は、日本で600年もの昔から行われてきた礼法の一つです。

そこに込められてきた“物を紙で包む”気持ちとはどのようなものなのでしょうか。

簡単な金封包みを折り、また水引工芸の見学を通じて、

贈り物をする際の伝統や習慣に、あらためて触れてみませんか。

●日時 12月9日（水） 13:30 - 15:30

●会場 山口県立美術館 講座室，小椋一象堂

●講師 小椋明美氏・磯部真由美氏（小椋一象堂）

●内容 ■ 奉書紙と水引の簡単な金封包みを体験。お金を贈る時のマナーや、和紙と水引についてお話を伺います。  
▪ ▪ その後小椋一象堂（山口市中市町3-15）を訪問し、  
▪ ▪ 結納品や金封などの水引工芸作品を見学します。

●参加費 400円（材料費）

●定員 10名（先着順・要申込）

●申込方法

往復はがきに、参加者の氏名・年齢・住所・電話番号をご記入のうえ、下記までご送付下さい。

▪ 〒753-0089 ▪ 山口市龜山町3-1

▪ 山口県立美術館

「お祝いの気持ちを包もう」講座 宛

